

生死に関わる価値観

(原文は英語)

アナスタシア (14 歳)

ウクライナ

2022年2月24日。私と私の世界観、私にとって一番大切だったものを変えた寒い冬の日だった。私の時計で朝5時ごろのこと、窓の外でものすごい爆発音がした。自分が別人になるような気がした。

「戦争がはじまった」という言葉は一生忘れられないだろう。今の自分にとって一番大切なのは命であることに私は気づいた。自分の命だけではない。私にとって大切な人たちの命もだ。それ以外の大切なものはすべて、命の後ろに追いやられ、それまでの悩みごとが消え失せたかのようだった。あらゆることが一日で一瞬にして変わってしまった。私は戦争の中にいるのだ。えっ？ なぜ？ 「愛してる」というあたりまえの言葉でさえ違う意味を持つようになった。自分の国に平和を取り戻すために私はすべてを捧げる覚悟をした。

人生にはいろいろな価値観がある。仕事での成功、高級車、海辺の豪華な別荘という人もいれば、初恋の人や家族、友人という人もいる。しかし「私は生きているよ」と書かれたメッセージを受け取ることが何よりも大切という人もいるのだ。

何百万人もの命を守るために、なぜこんなにも多くの人々が死なねばならないのか。不公平だ。戦場の最前線にいる兵士たちが唯一望むこと、それは生き残って家族のもとへ帰ることだ。何百、何千という罪のない人々の命を奪ったのは、戦争である。もう二度と心臓が鼓動することのない人、もう二度と笑顔を見せることがない人、もう二度と生きる素晴らしさを感じることができない人がいるのだ。もう二度と、だ。血にまみれた死体の代わりに、赤いポピーの花だけが咲き、サラサラと風にそよぐだろう、まるで彼らの最後の言葉を告げるかのよう。

世界の平和と他人への慈悲は最も大切にすべきことだ。戦争がもたらす恐ろしい結末を人々は知る必要がある。私たちはあらゆるものを変えることができる。子どもたちが決して戦争を知ることがないようにしよう。殺し合うのではなく愛し合おう。